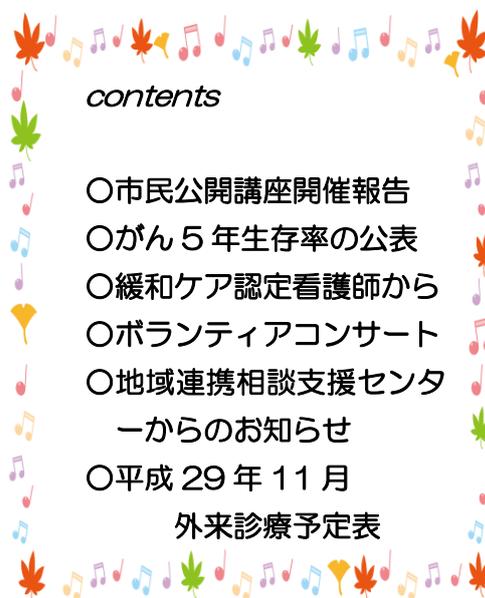


新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 29 年 10 月



contents

- 市民公開講座開催報告
- がん 5 年生存率の公表
- 緩和ケア認定看護師から
- ボランティアコンサート
- 地域連携相談支援センターからのお知らせ
- 平成 29 年 11 月
外来診療予定表



写真提供：医事課職員

信濃川のほとりに今日も佇む

基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっと大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



第21回新潟県立がんセンター市民公開講座 開催報告

市民公開講座担当副院長
本間 慶一

去る9月16日（土曜日）に当院主催の市民公開講座が開催されました。県民の皆様にご覧について正しい知識をお伝えするために「がん征圧月間」である毎年9月に開いてまいりました当院の市民公開講座も今回で21回目を迎えました。

<過去の市民公開講座テーマ>

第20回	平成28年	最近のがん診療の進歩と新潟がんセンター
第19回	平成27年	女性と小児のがん
第18回	平成26年	お年寄りのがん
第17回	平成25年	伝えたい“がんの検診と早期発見”
第16回	平成24年	“がん”の治癒とは？再発とは？
第15回	平成23年	がんに罹る人と治る人
第14回	平成22年	子宮頸がんの診断・治療と予防
第13回	平成21年	がん治療と緩和ケアとの関わり
第12回	平成20年	安心、安全、納得のがん治療
第11回	平成19年	がんを取り巻く病気たち、放射線治療の進歩
第10回	平成18年	がん検診でがんとサヨナラ
第9回	平成17年	乳がん、前立腺がんについて
第8回	平成16年	肝がんの早期発見と治療
第7回	平成15年	肺がんの早期発見と治療
第6回	平成14年	大腸がん、子宮がん、前立腺がんについて
第5回	平成13年	21世紀のがん診療
第4回	平成12年	「がん」にならないための生活習慣
第3回	平成11年	患者の立場からみた「望まれるがん医療」
第2回	平成10年	からだにやさしい「がん」治療 早期発見でこんな治療が受けられる ―治療法の進歩―
第1回	平成9年	からだにやさしい「がん」治療 早期発見でこんな治療が受けられる ―治療法の進歩―



肺がん検診のススメ 田中臨床部長



子宮がん検診のススメ 笹川婦人科部長

がんの予防と検診、精密検査／診断、一次治療・二次治療、そして緩和までの切れ目のない「がんのトータルケア」は当院の目指すところです。3巡目の初めにあたる今回の市民公開講座では「がん検診を受けましょう ～がん検診があなたを救い、家族を守ります～」をテーマにし、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がんのいわゆる5大がんの検診について、検診にも深く係っている当院がん専門医による講演と、地域連携・相談支援センター副センター長による検診で精密検査必要となった場合の当院受診方法について説明を行いました。

当日、土曜日の午後にも関わらず、100名弱の参加者がありました。いずれの演者の講演も大変分かりやすく、その場限りとするには惜しい情報がたくさんありましたので、市民公開講座の報告を兼ねて、当院のホームページに当日の講演抄録とスライドを公開させていただくことにいたしました（一部公開できない講演もあります）。

5大がんの検診は、「がんによる死亡」を防ぐことによって患者家族を守りと社会の活力を維持するために行う対策型の検診です。早期のがん発見は多大な医療費が必要となる進行癌患者を減らすことにもつながります。がん検診を受ける人が多いほど検診の目的が達せられますので、行政の補助のもと住民の皆様は無料あるいは比較的少ない費用でがん検診を受けることができます。またどこで受けても同じ検診方式・同じ精度を保証するため、検診方式の一元化や複数医師によるチェックなどの精度管理、毎年のがん検診結果の振り返りを含めたがん検診のデータ管理もしっかり行われています。

今回の市民公開講座が、住民の皆様の「がん検診」についての一層のご理解に繋がれば幸いです。

第21回新潟県立がんセンター市民公開講座

日時 平成29年9月16日(土曜) 午後1:00～午後4:30

会場 だいしホール

テーマ 「がん検診を受けましょう」

～ “がん検診” があなたを救い、家族を守ります～

演題テーマ	演者	氏名
肺がん検診のススメ	臨床部長	田中 洋史
胃がん検診のススメ	臨床部長	成澤 林太郎
大腸がん検診のススメ	臨床部長	小林 正明
乳がん検診のススメ	乳腺外科部長	金子 耕司
子宮がん検診のススメ	婦人科部長	笹川 基
がん検診で精査必要となったら	地域連携・相談支援センター 副センター長	若井 麗子

(当院ホームページ <http://www.niigata-cc.jp> → 「がん・疾患情報サービス」 → 「新潟県立がんセンター市民公開講座」にアクセスをお願いします)



大腸がん検診のススメ 小林臨床部長

県立がんセンター新潟病院では、がんの二次検診を行っています。

胃がん・肺がん・乳がんの二次検診については、がん予防総合センターにて電話で予約を受け付けています。

大腸がん・子宮がんについては、通常の受診をして頂き、検査を行います。ご利用をお待ちしています。

全国 188 拠点病院のがん 5 年生存率が公表されました

情報調査部 竹之内辰也

全国のがん診療連携拠点病院およびそれに準ずる拠点病院においては、院内がん登録の実施と国立がん研究センターへの毎年のデータ提出が義務付けられています。今回、2008 年登録症例の施設別の 5 年相対生存率データが国立がん研究センターから発表されました。425 の拠点病院の内、90%以上の生存状況把握ができた 209 病院が全国集計の対象で、なおかつ施設名の公表に同意した 188 病院について 5 大がんの生存率が示されました。患者さんの年齢構成や合併症の有無、病期分布などは施設によって異なりますので、施設間の治療成績の優劣を示すものではありませんが、患者さんが主治医とともに治療選択を考える際の一助にはなるものと思います。

5 大がんにおける当院の相対生存率は全国平均よりも概して高い数字になっており、新潟県全体に同様の傾向がみられます。がんの発見経緯として、がん検診や人間ドックで見つかるケースが当院がん症例の 3 割近くを占めていますので、検診受診率の高さが早期例の増加と生存率の向上に寄与しているものと思われる。しかし、本県の検診受診率が全国と比較して高いとはいえ、当然ながら十分ではありません。がん検診による早期発見・早期治療の重要性について、県民に向けて今後さらに啓発していく必要があります。

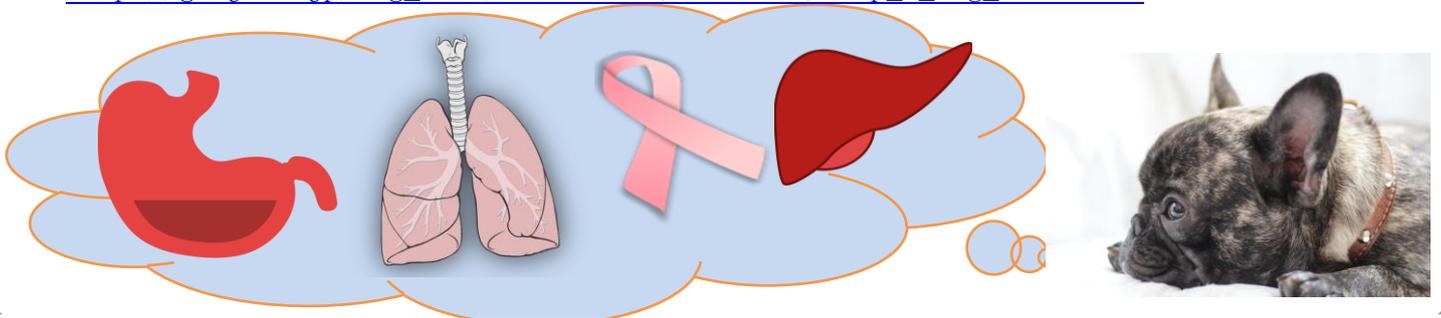
5 大がんの 5 年生存率（2008 年症例）

	新潟県立がんセンター新潟病院				全国平均
	登録数	死亡数	実測生存率 (%)	相対生存率 (%)	相対生存率 (%)
胃	415	125	69.9	79.1	70.4
大腸	179	49	72.6	81.4	72.6
肝	51	32	37.3	42.9	38.5
肺	422	255	39.6	45.7	39.1
女性乳房	248	15	94	96.6	92.7

参考：国立がん研究センター がん情報サービス

がん診療連携拠点病院院内がん登録生存率集計

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/hosp_c_reg_surv.html



緩和ケア認定看護師の紹介

緩和ケア認定看護師 船見 恵美子



新潟県立がんセンター新潟病院には日本看護協会認定看護師の 11 名の内、緩和ケア認定看護師（認定看護師：CN）は、現在 2 名います。これまで当院では、緩和ケア CN は 1 名でしたが新たに平成 29 年 7 月に 1 名誕生し、緩和ケアセンターと西 5 病棟（消化器外科・呼吸器外科）にそれぞれ所属しています。

緩和ケア CN の役割は大きく分けて 2 つあります。

一つ目は、疼痛、呼吸困難、全身倦怠感、浮腫など苦痛の症状緩和。二つ目は患者・家族への喪失と悲嘆のケアになります。緩和ケアの介入時期は終末期と思われがちですが、がんと告知された早期からの介入であり患者・家族が対象となります。

患者の身体的苦痛、精神的苦痛、治療選択に関する事、治療の副作用に関する事など、多岐にわたり様々な相談を受けています。相談窓口は「がん看護外来」に緩和ケアがあり、月間予定表（ホームページに掲載）を見て予約後利用をしていただいています。完全予約制ではありませんが、面談が必要な方には臨機応変に対応をしています。



苦痛のスクリーニングシートとして、オレンジ色の紙「橋わたしーと」が院内に設置されています。[いたみのこと][いたみ以外の体のこと][気持ちのつらさ]に印がつくと、面談を行い必要に応じて緩和ケア科外来の受診につなげることもあります。

これからも適切な緩和ケアを提供し、診断時、治療中、在宅医療などさまざまな場面において、切れ目なく提供できるように関わっていきたいと思います。また、患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるように、患者・家族の意向を踏まえ、症状緩和に努め安楽に過ごせるような緩和ケアを提供していきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。

緩和ケア認定看護師 大竹 美幸



現在消化器外科・呼吸器外科病棟に勤務し、手術や化学療法を受ける患者さんのケアをさせていただいています。治療期をともに過ごした患者さんが終末期を迎えた時、スタッフは患者さんに寄り添いたいと思いつつも急性期の患者さんのケアに追われて余裕がなかったり、

全人的苦痛が増強していく状況に自分にはなす術がないと感じてしまうことがあります。

一般病棟では緩和ケアは難しいという声も聞きますが、治療期のケアを通してその患者さんの生き方、大切にしていることをスタッフはちゃんとキャッチしています。病院では在宅と同じような生活を送っていただくことには限界がありますが、患者さんらしさ、自律性を尊重したケアを実践できるようスタッフと学んでいきたいと考えています。また在宅療養を希望される患者さんも増えていますが、終末期は状態が変化しやすく意思決定の時期の難しさを感じています。「緩和ケア」という言葉で終末期を連想する患者さんも多く、認定看護師としてかかわる機会がもてていません。治療期の患者さんにも緩和ケアについて正しく認知していただけるよう、全人的苦痛の緩和や意思決定支援の場面で専門性を発揮していきたいです

ボランティアによるコンサート

平成 29 年 8 月 20 日（日曜日）開催



ギターサークルドレミの皆さまからのクラシックコンサートがあり、会場の参加者は40名でした。

ロシア民謡から、花嫁人形、青い山脈など会場に来られた患者さんも一緒に歌える選曲でした。

クラシックギターの音がホールに響き渡り、参加者からとても良かったという感想を頂きました。

平成 29 年 9 月 12 日（火曜日）開催

小児科病棟の患者さんを対象に、アマチュア人形劇サークル「ぶんちやかちや」の方から人形劇、クイズ、大道芸などを披露していただきました。17名の参加でした。

親子で一緒に楽しめる内容で、会場では笑いがあり、こころがほっこりする時間を過ごしました。



平成 29 年 10 月 2 日（日曜日）開催



榎本正一・オカリナサークル「風」の皆さまからピアノとオカリナの演奏がありました。60名の参加でした。

音楽と共に手作りで赤いバラの折り紙のプレゼントを全員にいただきました。クイズの景品では、小さなオカリナをプレゼントしていただき、とても喜ばれました。

この他にも、ピアノ・フルートのコンサートがあり、多くのボランティアの方々から、患者さんを支援して頂いています。



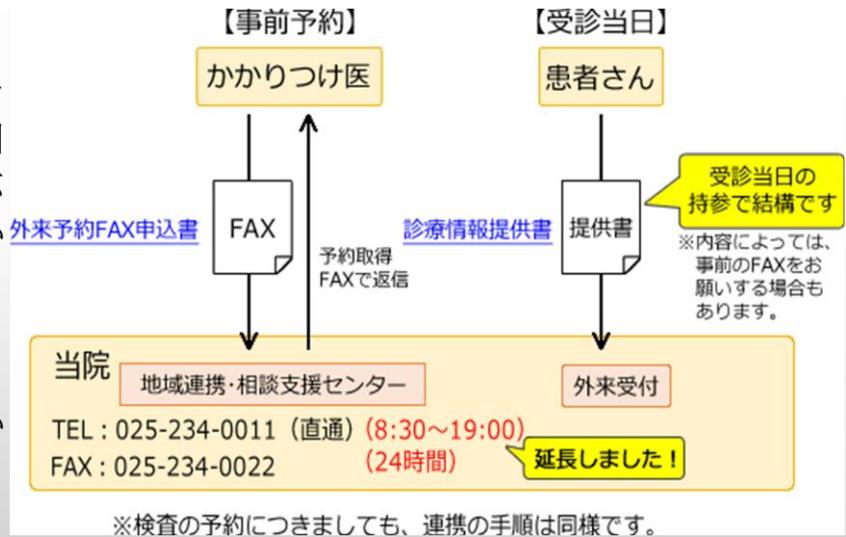
地域連携相談支援センターからのお知らせ

<病診連携担当より>

FAXによる外来予約がスムーズな受診につながります

患者さんが紹介状をお持ちになり、受診される場合、事前に FAX 予約をいただく事で外来受診時の待ち時間短縮につながります。また、必要に応じて画像やレポート等の予めお預かりしておくことで来院時の診療がよりスムーズになりますのでご利用ください。

予約枠に限りがあり、ご迷惑をおかけしております。



病診連携は、私たちが担当しています。
よろしくお願ひします。



<7月から退院前訪問指導・退院後訪問指導を始めました>

医療ニーズが高い患者さんに、安心・安全に在宅での医療が継続できるように、入院中及び退院直後に患者さん宅を訪問し、患者さん又は患者さんの看護にあたる方に、在宅療養で必要な指導を行います。また訪問看護ステーションとの連携を推進し、在宅療養が継続できるように一緒に考えます。

既に4件の訪問を行いました。人工肛門の自宅での対処方法、在宅酸素導入の環境調整、痛みのコントロール、日常生活指導等を行いました。訪問看護ステーションの看護師さんからも同行していただいたケースもありました。

病棟の看護師は、患者さんの生活の場を実際に確認することで、より在宅を考えながら退院支援を行うことに繋がります。また訪問看護ステーションの方との連携強化にもつながると考えています。

新潟県立がんセンター新潟病院 平成29年11月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜Cは新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 安住 里映	A 佐々木 俊哉	A 塩路 和彦	C 勝海 悟郎(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 田中 洋史		B 野寄 幸一郎		B 青木 亜美
	新患 (医師2名隔週交替) ↓*参照	A 成澤 林太郎	A 青柳 智也	A 安住 里映	A 小林 正明	A 塩路 和彦
		F 谷 長行	D 栗原 太郎	E 大山 泰郎	B 青木 亜美	D 張 高明
		A 佐々木 俊哉	B 小山 建一	B 田中 洋史	C 大倉 裕二	A 栗田 聡
	B 三浦 理	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介	D 廣瀬 貴之	B 野寄 幸一郎	
*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医については内科外来にお問い合わせください。						
A：消化器 B：呼吸器 C：循環器 D：血液 E：内分泌 F：糖尿病						
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	吉田 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診			第3週甲状腺外来	専門外来(11:00~1週は移植外来)	吉田 咲子
*新患は紹介状が必要です。						
乳腺外科 消化器外科	1 診	長谷川 美樹(乳腺)	藪崎 裕(胃)	土屋 嘉昭(肝胆脾)	中川 悟(食道・胃)	瀧井 康公(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆脾)	番場 竹生(食道・胃)	丸山 聡(大腸)
	3 診	諸 和樹	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	森岡 伸浩	野上 仁(大腸)
	4 診		井田 在香	高野/小柳[交替]		八木/渡辺/宮城
	予防センター-乳腺		金子 耕司	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林 智寿子
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器外科	1 診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英	青木 正	吉谷 克雄
	2 診	橋本 諒(午前)	岡田 英			岡田 英
*水曜日は新患の対応はできません。						
整形外科	新患	骨転移外来 島野/佐々木[隔週交替]	島野 宏史	小林 宏人	佐々木 太郎	村山 雄大
	再来	小林 宏人	佐々木 太郎		島野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
神経内科(新潟大学より)		茂木 崇秀		二宮 格		
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫(4週の午後)
婦人科	1 診	笹川 基	菊池 朗(午前)	笹川 基	菊池 朗(1,3週午前)	笹川 基(午前)
	2 診	横尾 朋和(午前)	日向 妙子	菊池 朗	横尾 朋和	日向 妙子
	3 診			遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・須田)(午前)	
皮膚科	1 診 (主に新患)	高塚 純子	齋藤 勇輝	竹之内 辰也	虎井 僚太郎	高塚(1,3,5週) 齋藤(2,4週)
	2 診 (主に再来)	齋藤 勇輝	竹之内 辰也	齋藤(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	虎井 僚太郎	虎井 僚太郎	虎井 僚太郎	齋藤 勇輝	虎井 僚太郎
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	武田 啓介	齋藤 俊弘	齋藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	風間 明	小林 和博	風間 明	武田 啓介
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎(再来)	太田 久幸(新患)		佐藤 雄一郎(新患)	若杉 亮(新患AM)
	2 診	高橋 剛史(新患)	若杉 亮(再来)		太田 久幸(再来)	太田(1,3,5週PM) 高橋(2,4週PM)
	3 診	太田 久幸	高橋 剛史		若杉 亮	
放射線治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3 診	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本
*木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1 診	富田 美佐緒	丸山 洋一	富田 美佐緒	富田 美佐緒	渋江 智栄子
	2 診	渋江 智栄子	富田 美佐緒	渋江 智栄子	渋江 智栄子	
	術前		阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	午前/午後	本間 英之	本間 英之	本間 英之	本間 英之	本間 英之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
*原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話：025-266-5111)						

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます